



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2014.9

No.365

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



トコロジストを目指して 西新井の森 “昼探” 報告 II

浅見 徹(さいたま市)

職場の近くに雑木林(「さいたま市ふるさとの緑の景観地」通称西新井の森)があります。昼休みの時間を利用して、職場の仲間を誘って「昼休み探鳥会」略して“昼探”を続けています(地図等、前報『しらこぼと』No.353, 2013.9 参照)。前報から1年を経過したのを機に、データをまとめてみました。前報で、トコロジストを目指すなんて、カッコイイことを言っていましたでしたが、その道は中々厳しい。単なる鳥見レクリエーションの域を出ていませんが、データをまとめてみると、色々な面白いことが見えてきました。

表1. 季節毎昼探出動回数

期間: 2013/04/4~2014/07/31, 単位: 回

| 季節(月) | 2013年 | 2014年 | 合計 |
|----------|-------|-------|-----|
| 春(3~5月) | 30 | 23 | 53 |
| 夏(6~8月) | 20 | 7 | 27 |
| 秋(9~11月) | 13 | — | 13 |
| 冬(12~2月) | 6 | 12 | 18 |
| 合計 | 69 | 42 | 111 |

表1が、昼探出動回数です。季節によってかなり差があるのは、猛暑や昨冬の記録的積雪などに負けたためです。季節ごとのデータ数がこれだけバラツクと、観察記録としての価値という信頼性が低くなりますが、そこは趣味の延長とご容赦ください。

この間に観察された野鳥の種類は、47種類にもなりましたが、1回だけの偶然のたまもの的な種類も多くあります。47種を鳥学会リスト改訂7版の順に示すと、以下のようになります。

コジュケイ キジ カルガモ キジバト カワウ アオサギ ホトトギス カッコウ ハイタカ オオタカ カワセミ コゲラ アオゲラ チョウゲンボウ モズ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジウカラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイ

ス エナガ エゾムシクイ メジロ ムクドリ コムクドリ シロハラ アカハラ ツグミ ジョウビタキ キビタキ オオルリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ クロジ (番外: ガビチョウ)

右ページ表2に、季節毎に観察(鳴き声だけの確認も含む)した野鳥の確認率(%)を示します。ただし、誌面の都合上、全期間合計の確認率が5%以上の野鳥のみとしました。

ここで、確認率(%) = 確認できた回数 ÷ 出動回数 × 100 です。

この表(および元データ)を見ていて、「面白い!」と思ったことを以下に記します。

○ 留鳥といわれている鳥たちも、季節的に見られる確率は大きく変化する

キジ: 1年中いるのですが、鳴かないと分かりません。しかし、表2の季節変動は、それだけではないような気がします。季節によって移動しているのかも知れません。

カルガモ: 近くの大宮花の丘公園の池や、鴨川に生息しているものが、繁殖期になると行動範囲を広げているのでしょうか。ほとんどが、上空を飛んでいる姿の確認結果です。

カワラヒワ: 留鳥と書いてある図鑑が多いと思いますが・・・亜種カワラヒワと亜種オオカワラヒワの入れ替わりでしょうか、季節によって確認率は大きく変化しています。2月下旬に、20羽以上の群れで行動しているのが観察されました。

ホオジロ: キジ同様、1年中いると思われませんが、囀りが目立つ季節の確認率がアップしたようです。

○ 初認と終認が、記録を付けているとはっきり分かる

まだ1年ちょっとの記録ですが、これを続けることによって、環境の変化と絡めて興味

深い分析ができるような気がします。

ツバメ：2013年終認8/26、2014年初認3/10、

ツグミ：2013年終認5/1、2013年初認12/26、
2014年終認5/2。

やっぱり、続けることが重要ですね。そして、続けるための原動力は、稀に出会える「心のときめき」です。この1年間の「心のときめき」ベストテンをご紹介します。

第1位 カッコウの訪れと終日続いたあの鳴き声（2014.6.3）／仕事でもずっと聞こえてきて、高原にいるような気分の日でした。

第2位 ハイタカ♂が目の前の地上に（2013.11.27）／昼探コースの途中の高校のグラウンドの隅にいたのです。小鳥を追いかけていてフェンスにでもぶつかり一時的に飛べなかったようです。鋭い目つきと赤褐色の胸から腹の模様。見ていて、心臓の鼓動が高鳴りました。

第3位 アオグラ♂がいた！（2013.12.26）／薄暗い杉の幹に動く大きな鳥を同行のMが発見。双眼鏡に入ると、何と!! この森で十数年ぶりのご対面でした。

第4位 キジ♂の復帰（2014.3.26）／前年6月24日を最後に、ぷつぷつと居なくなったキジが、9ヵ月ぶりに元気な姿を見せてくれました。この間、見付けられなかっただけ？ それとも、どこかに旅行にでも行っていた？ 雉鍋にして食われてしまったのではと心配し、再会を半ば諦めていただけに、嬉しさもひとしおでした。

第5位 キビタキの囀（2014.5.2）／薄暗い林内に、キビタキの陽気な囀りが響き渡っていました。残念ながら、姿は見えず。

第6位 ハクセキレイの教育ママと幼鳥たち（2014.6.26）／コース途中の草地でのこと。餌をねだる幼鳥たちに、成鳥♀がせっせと餌運び。幼鳥たちは時々追いかけてこをして飛び回っては、また餌ねだり。微笑ましい情景でした。

第7位 エナガ夫婦の巣材集め（2014.2.26）／杉の細枝で、2羽のエナガが何かを一生懸命つくような仕草を繰り返していました。多分、夫婦で巣材集めをしていたのでしょう。

表2 観察種類と確認率(%) ※5%以上を抽出

2013/04/04~2014/07/29 : 観察回数:111回

| 種名 | 春 3~6月 | 夏 6~9月 | 秋 9~12月 | 冬 12~3月 | 全期間 合計 |
|---------|-----------|-----------|------------|------------|-----------|
| キジ | 66 | 15 | | | 35 |
| カルガモ | 40 | 15 | | | 23 |
| キジハト | 94 | 78 | 85 | 89 | 88 |
| オオトカ | 17 | 11 | | 17 | 14 |
| コゲラ | 51 | 33 | 54 | 72 | 50 |
| モズ | 25 | | 54 | 50 | 26 |
| カケス | 15 | | 15 | 17 | 12 |
| オナガ | 28 | 7 | | 22 | 19 |
| ハシソコガラス | 60 | 52 | 62 | 33 | 54 |
| ハシトガラス | 94 | 100 | 85 | 83 | 93 |
| ジジュウカラ | 100 | 81 | 77 | 94 | 92 |
| ツバメ | 92 | 96 | | | 68 |
| ヒヨドリ | 96 | 96 | 85 | 89 | 94 |
| ウグイス | 11 | | 15 | 33 | 13 |
| エナガ | 6 | | 8 | 44 | 11 |
| メジロ | 57 | 48 | 46 | 94 | 59 |
| ムクドリ | 94 | 59 | 15 | 56 | 70 |
| シロハラ | 6 | | | 17 | 5 |
| ツグミ | 49 | | | 61 | 33 |
| ジョウビタキ | 2 | | 8 | 33 | 7 |
| ハクセキレイ | 89 | 81 | 69 | 56 | 79 |
| セグロセキレイ | 8 | | 8 | | 5 |
| カワラヒワ | 64 | 70 | | 11 | 50 |
| シメ | 15 | | | 22 | 11 |
| ホオジロ | 55 | 74 | 8 | 33 | 50 |
| アオジ | 26 | | 8 | 39 | 20 |

ということは、この近くで営巣?!

第8位 エゾムシクイ目の前で囀り続ける（2013.5.13）／職場の建屋3階の窓外。隣地との境界に植えてある針葉樹の枝葉の中。ガラス窓越しに5mほどの距離から、見下ろすように観察。こんなこともあるのだ。

第9位 ホオジロ♂とカシラダカの仲良しペア（2014.2.25）／美形のホオジロ♂とカシラダカが地面で並んで採餌。餌をついばみながらの移動時も、常に一緒。何と、翌日も一緒に採餌していました。ハイブリッド誕生? そんな話、聞いたことないな~

第10位 最後は野鳥でなく昆虫クツワムシとの出会い（2013.10.10）／林縁の丈の高い草地を歩いていて、葉の上に止まっているを見つけました。童謡でおなじみの虫ですが、自然下で見たのは、これが初めてでした。

以上、私的昼休み探鳥会“昼探”の報告でした。どうですか？ あなたも身近な所で始めてみませんか？

野鳥記録委員会の情報

ホオジロの亜種

ホオジロ科ホオジロ属ホオジロ

Emberiza cioides

会員の田口勝利さん(さいたま市)から、今年6月2日(月)、飯能市郊外の雑木林で撮影した鳥の写真2枚を同封し、種名を尋ねる手紙が届きました(写真右)。

眉斑、頬線、過眼線、耳羽、胸の色、尾などから、ホオジロと思われます。冠羽が見えるようにも思いますが、頭部の羽毛が何かの原因で乱れ、冠羽のようにになっているホオジロを見かけることはあります。しかし、全体に赤みが強く、特に耳羽が強い赤褐色であることから、亜種について検討を進めてみました。

ホオジロは、以前は他の亜種名で分類されたこともあります。現在は次の5亜種に整理されています。

亜種ホオジロ *E. c. ciopsis*

亜種モウコホオジロ *E. c. cioides*

亜種シベリアホオジロ *E. c. weigoldi*

亜種ニシホオジロ *E. c. tarbagataica*

亜種チョウセンホオジロ *E. c. castaneiceps*

耳羽が強い赤褐色であることに注目すると、雄成鳥夏羽である場合、亜種ホオジロのみが黒く、他の4亜種は赤褐色です。したがって、これは亜種ホオジロではないことになります。

また、亜種チョウセンホオジロの雄夏羽の白い眉斑と頭上との境界は細く黒い個体が多いとされていますが、写真からはそれらしい線が見えます。

ただ、これが雄成鳥夏羽であるという根拠は、撮影日と全体的な印象以外に特にありません。さえずり、鳴き声、周辺にいた他の鳥などについての報告や、自然分布か、輸入鳥の籠脱けかを判断する手がかりなどもありま



せん。

頭上の斑点と地色、背の縦斑と地色、胸帯の色が、亜種の識別で重要ですが、送られた写真では、それらはほとんど見えません。

亜種ホオジロ雌成鳥夏羽の少し色の濃い個体と考えても矛盾はないという意見もあります。結局、どの亜種であるかを判断する材料が十分ではないとの考えは概ね一致し、結論が出ないまま、議論の流れの概略をひとつの情報としてお伝えすることになりました。

なお、『日本鳥類目録改訂第7版』(日本鳥学会 2012)本文には、亜種ホオジロ以外の記載はありませんが、「検討中の種・亜種」のページに、亜種チョウセンホオジロが記載されています。

参考文献：ホオジロ識別マニュアル 平成23年10月 環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護業務室発行 (財)山階鳥類研究所業務請負

セイタカシギ繁殖

セイタカシギ科セイタカシギ属セイタカシギ
Himantopus himantopus

秋ヶ瀬野鳥クラブの森川壯二郎さん(当会未入会)から、今年7月9日(水)、川越市内の水田地域でヒナ連れのセイタカシギを撮影したとの連絡が届きました(写真右)。

「ヒナは4羽? 8日(火)に巣立った1羽は車にはねられて死亡。10日(木)にはヒナ3羽を観察できたが、11日(金)成鳥4羽がすべて離れた沼に移動して、ヒナの姿は見えない」、あるいは「14日(月)近くの水辺で成鳥2羽とヒナ1羽を見た」などの情報があります。いずれにしても、繁殖の事実は間違いのないと思われれます。

本種は2009年8月に越谷市内で繁殖が確認された記録があり、本会に報告のあったものとしては、県内2例目の繁殖記録です。



コジュケイ、ガビチョウたち

鈴木 誠(越谷市)

一級河川である中川右岸河川改修事業が平成12年から始まり、現在は川幅の拡張、築堤工事などほぼ完了した。河川敷地内は、整地等の手を入れずそのままの状態での放置だったので、昔からあるケヤキ、ムクノキ、トチノキの落葉樹や雑木、シノダケ、アシ、ススキが生い茂り、野鳥や昆虫が生息していくのに格好の場所となった。

今回は、この場所(吉越橋付近から吉川橋あたりまで)に帰ってきたコジュケイ、新しくきたガビチョウを中心に紹介したい。

コジュケイ：平成26年5月14日、突然鳴きだした。このあたりで、私がコジュケイの鳴き声を聞いたのはおよそ60年前の昭和30年ごろで、まだ農家の屋敷林や竹林が多くあり、親鳥が幼鳥を7~8羽引き連れて移動しているところを何度か見たことがある。それ以来の出来事だったのでとても感動した。

5月中は7日間、鳴き声を聞いた。特に14、23、30日は朝、昼、夕と一日中鳴いていた。6月は6日間、7月は29日現在、22日間鳴き声を聞くことが出来た。

また、朝5時から5時30分には鳴き出すこと、鳴く回数は20~30回ぐらいであることがわかった。そして、最後の3~5回ぐらいは、息切れしてかかすれ声になっていた。

ガビチョウ：平成24年6月頃、早朝から聞きなれない鳥の鳴き声。テープに録音し野鳥に詳しい方に聞いてもらった。結果「ガビチョウ」だった。初めて対面したのは昨年5月頃。雑木林の地上2.5mほどの木の枝にいた。今年は5月中に7日間、朝、昼に鳴き声を聞いた。6月4、5、6、7日は朝に、そして9日は朝と昼に聞くことができた。7月は聞いていない。

ガビチョウは、秩父や県の北西部、狭山丘陵などではいつでも観察できるというが、県南や県東部では少ないようだ。越谷にはどのルートで入ってきたのだろう。

キジやサギたち：5月14日にはコジュケイ、ガビチョウ、キジの鳴き声を聞くことができ

た。この3種の鳴き声は、自宅から(吉越橋に近い)直線で50~200mの範囲で鳴くので家の中にも聞こえてくる。しかし、この3種は越谷市内においてはなかなか見ることができない鳥でもあり、特長のある鳴き声等、これからも観察を続け注目していきたい。

なお、この地の北約2km先に、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギ、アオサギのコロニーがあり、数を計測した方の話では、1,200羽いたそうだ。

自宅でカッコウを聴いています

山部 直喜(三郷市)

ここ10年ほど、毎年カッコウの声を自宅で確認している。以下は今年の報告である。

・5月16日、5:15。鳴き声で目が覚めたが、14日までモンゴルで探鳥を楽しんでいたせいもあり、「ここはモンゴル? 日本? ああ、モンゴルではカッコウは見なかった、日本だあ、今年初めてのカッコウだ」と独り言。

・5月22日、8:20。出勤時に姿を確認。毎年のいつものアンテナでいつもの方向に向けて鳴いている。

・5月24日、5:00。初認以来、毎朝聴いてはいるが今朝の鳴き方は機関銃。あれではあのアンテナのマンションに住んでいる人は眠れまい。自宅とは100m以上離れてはいるが、「やかましい」と小声でカッコウに注意しておいた。

・6月初旬。やはりよく鳴いてはいるが、5月24日頃とは明らかに違う。カッコウが自分の鳴き声のエコーを楽しんでいるように感じる。今年の4月号P4、てこり氏が『野鳥の楽しみのこと』で「野鳥も自分の楽しみのために残響を利用している部分もあるのではないか」とおっしゃられていたが、まさにその通りだと思う。

・6月中旬から下旬。以前ほど長時間鳴き続けない。鳴くときの姿勢も声もなんとなく落ちついている。確認できない日もあった。

・6月29日、5:40。いつものアンテナで、尾も上げないでゆっくりと10回ほど鳴く。これが今年の終認となった。



野鳥情報

さいたま市岩槻区金重 ◇4月30日朝、ムナグロ41羽、キアシシギ1羽、コチドリ1羽、カワセミ1羽、ヒバリ1羽（本多己秀・久文字）。

さいたま市見沼区加田屋 ◇6月9日、加田屋川でカルガモの親子連れ。親の半分ぐらいの大きさまで育った幼鳥が10羽も！子育てのうまいお母さんのようだ。7月9日、田んぼ半行程の小さなアシ原にオオヨシキリ3羽。アシの上部にとまり、さえずってはちょっと休んで羽繕いを繰り返す2羽、姿を現さずに、アシの中でさえずり続ける1羽。これでも縄張り争いなのかなあ…なんかユルイなあ…。7月14日、加田屋川でカルガモ10羽。全員、ほぼ同じ大きさ。6月に見た親子だとしたら1羽減ったものの9羽は無事（小林みどり）。

さいたま市見沼区染谷 ◇6月9日、キビタキさえずる。こんな時期までさえずりが聞こえるのは初めてなので、繁殖を期待したが結局、これがこの春の終認。6月17日、ハシボソガラス成鳥1羽と幼鳥1羽、連れだって歩く。幼鳥がねだっても、もう親は食べ物を与えない。幼鳥は仕方なしに手当たり次第、地面に落ちているものをついばむが、食べ物かどうかの判断はできないらしく、くちばしに一度くわえてみるものの、食べずに落とす。6月25日、ホトトギス、盛んに鳴くが、姿は見つからない。7月24日、コジュケイ2羽、車も時々通る広い道路を横断。きょろきょろと周りを見る様子はまるで「右よし！左よし！」と安全確認しているようだった（小林みどり）。

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇6月9日、公園の池にオオバン1羽。カワセミ1羽、鳴きながら加田屋川の方へ飛んでゆく（小林みどり）。

さいたま市北区芝川（県道2号線～鷲山橋）
◇6月10日、コチドリ1羽、鳴きながら飛ぶ。カワセミ1羽、オオヨシキリ1羽（小林みどり）。

さいたま市西区昭和（大久保農耕地） ◇6月11日、堤防上の砂利道からコアジサシがついに1羽もいなくなった。コチドリ数羽が歩きまわっているが、抱卵している様子はない。さえずっていたヒバリ1羽が草地に降りる。その近くに、もう1羽がくちばしに何かくわえて来て、草の間に隠れて見えなくなった。おそらくヒナのいる巣があるのだろう。この近くにいたオオヨシキリは、ヒバリに追い立てられていた（小林みどり）。

さいたま市見沼区加田屋新田 ◇6月17日、市営霊園「思い出の里」内の遊水池のアシ原でさかんにさえずるオオヨシキリ1羽。その近くにくちばしに虫をくわえたもう1羽が飛来し、アシ原に潜りこむ。育雛中のようなので、霊園管理者にしばらくの間、アシ原を刈らないようお願いした（小林みどり）。

さいたま市見沼区猿花キャンプ場 ◇6月17日、さえずりがひと声聞こえたので周囲を探したら、尾の短いサンコウチョウ1羽が枝移り。青いアイリングがあるので成鳥であろう。ちょっと遅い気もするが、繁殖地への移動中と思われる（小林みどり）。

蓮田市馬込 ◇6月18日午前9時20分、庭先でカッコウが三声鳴いた。渡りの途中だろう（本多己秀）。

さいたま市岩槻区長宮 ◇6月20日、ダイサギ7羽、くちばし全体が薄黒いもの、既に黄色くなったもの、目先に婚姻色が出ているものなどがいる。成熟の速度は個体によってずいぶん違うらしい。コチドリ成鳥6～7羽、幼鳥1羽。コアジサシ成鳥3羽。昨年までは十数つがいが繁殖していたが、今年は少ない。営巣地は草地化が進み、営巣環境は悪化している（小林みどり）。

さいたま市見沼区蓮沼 ◇6月25日早朝、自宅でホトトギスの声を聞く。7月14日、近所の畑の隅でコジュケイ1羽が「ピョッ、ピョッ、ピョッ」と甲高い声で鳴く。10mほど離れた所に猫が1匹。この“ピョピョサンダル鳴き”は警戒の意味があるのだろうか？猫を追い払ったら鳴きやむかどうか、

実験だ！と畑を回って猫に近づこうとしたら、コジュケイと鉢合わせ。コジュケイは意外にも落ち着いた様子で、藪に姿を消した。猫はそのまま、居眠り（小林みどり）。

さいたま市岩槻区宮町 ◇6月25日午後5時30分頃、雷雨が治まったので、軽い散歩に出掛けると、久伊豆神社上空をホトトギスが鳴きながら、南東から北西の方向に飛んで行った。自宅近くで、ホトトギスの声を聞くのは2年ぶり、この時は6月21日だった（菊川和男）。

さいたま市西区、桜区の鴨川 ◇6月30日、藤橋近くの小さな堰の上でヒドリガモ♂1羽、オナガガモ♂1羽が寄り添う。翌々日には別れて、500m程隔てた別々の中州の上で羽繕い。羽毛がやや色褪せて見えたのは、換羽の始まりか？他にカルガモ、カイツブリ、アオサギ、ゴイサギ成鳥と幼鳥、インシギなど。7月4日、2羽のカモはめでたく？合流。オナガガモの方はほぼエクリブス羽になっていた。2羽とも何かしら訳があって渡りに加われなかったのでしょうか、日本の夏を越えられるのでしょうか。ともあれ、何とか冬まで無事でいて、仲間と再会できるよう祈っています（大塚壮一・純子）。

さいたま市桜区白鷺電建住宅調整池 ◇7月2日、通りがかりに甲高い「ピオ、ピオ、ピオ…」を聞き、覗いてみると、コチドリが4羽、内3羽は、所々水が溜まり、草も生えているコンクリートの上を追いつ追われつ。ツーッと流れるような速さで走り回っていた。ここでは、ほぼ毎年コチドリの鳴き声を聞く。他にハクセキレイ5羽（大塚壮一・純子）。

さいたま市見沼区宮ヶ谷塔 ◇7月6日午前10時頃、オオヨシキリを数えていたら、ヨシゴイが飛んで出た。この場所でヨシゴイを見るのは2002年以来で、ちょっと興奮した。他にカワセミ2羽、ゴイサギ数羽を見た（菊川和男）。

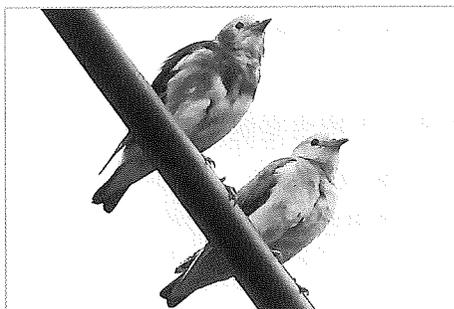
白岡市下大崎 N36.0471 E139.6133 ◇7月8日、ダイサギ、コサギ、アマサギが合わせて60羽±（長嶋宏之）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇7月9日、ムクド

リ50羽±がハナミズキの実に群がって採餌していた。コアジサシ1羽が西沼でダイビング。小魚をくわえて南西に飛び去った。

7月17日、ホオジロが囀っていた。繁殖したのかな？ウグイスが3声囀った。上手ではなかった。他の鳥が真似たのかな？カワセミが2回目の繁殖。抱卵中のようだ（長嶋宏之）。

春日部市増田新田、武里中野、薄谷 ◇7月11日午後5時45分頃、玄関を出たところ、すぐ近くの電線に多数のムクドリが並ぶ。何気なく見上げたら、小さめのムクドリが目に入り、コムク！と直観。すぐさま、カメラを取って返して、撮影（下写真）。電線上の群れ全体を一望した結果、ムクド



リ中にコムクドリ数十羽（約70～80羽か？）。しばらく休憩後、コムクドリ主体の混群が東方に向けて飛去。15～20羽ほどのコムクドリが残留し、午後6時10分頃、やがていずこかへ飛んでいった。前日までは上記の光景は認められなかったので、7月11日が自宅周辺での南下初認とみてよいだろう。その後も7月12日、13日、14日、15日、16日と連日の夕方、ムクドリの大群中にコムクドリの群が混じっていた。昨年、コムクドリの時になった春日部市大沼運動公園は何の変化も見られず。ムクドリ、コムクドリとも皆無（石川敏男）。

表紙の写真

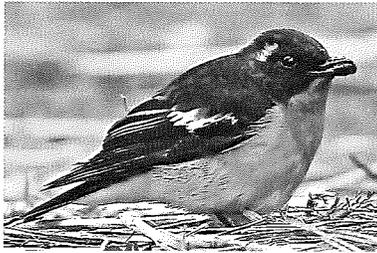
タカ目タカ科ハイタカ属ツミ

ツミを見ていたら、風切羽をひょいと抜いて、私にプレゼントしてくれました。

田島利夫（深谷市）



行事案内



ムギマキ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

小雨決行ですが、悪天候や異常高温の場合は中止することもあります。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

リーダー研修会(要予約)

期日：9月7日(日)

詳細は8月号をご覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月14日(日)

集合：**午前8時20分**、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷 8:00 発、または寄居 7:39 発に乗車。

担当：千島、新井、鵜飼、倉崎、田島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：土手からゴルフ場の間を通りゴルフ場裏を河原まで歩きます。残暑は厳しくても、移動中の夏鳥に会えるでしょう。

ご注意：今月まで、集合の早い夏時間です。

シギ・チドリ類県内調査

期日：9月15日(月・祝)

春と秋の2回、当会独自の調査です。多くの会員の参加・ご協力をお願いいたします。

◆ 大久保農耕地(さいたま市)

集合：午前9時30分大久保浄水場の北西角近くの土手の上、荒川総合運動公園入口。

担当：石井

解散は昼頃の予定。調査のため参加費不要。小雨決行ですが、大雨や悪天候の場合は中止します。浦和駅西口②番バス乗り場から8時33分発「大久保浄水場」行きバスで終点下車、徒歩約15分。なお、秋はシギ・チドリ類が大

変少ないこともあります。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月20日(土) 午後3時～4時ころ

会場：会事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：9月21日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：小林(み)、青木、赤堀、浅見、石塚、楠見、小菅、柴野、須崎、新部、畠山、増田

見どころ：暑さの中にも、しのびよる秋の気配が感じられる季節。身近な鳥たちの暮らしに、変化を見つけましょう。冬鳥のトップランナー、コガモに会えるでしょうか？

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月21日(日)

集合：**午前8時**、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越7:19(準急) →坂戸で越生線乗り換え7:40発。または寄居6:43 →小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR埼京線大宮6:37 →川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、久保田、志村、鈴木、高草木、藤掛、藤澤、増尾、持丸

見どころ：9月の高麗川は留鳥中心の探鳥会です。例年、彼岸花が美しい時期でもあります。渡りのサシバが見られるといいですね。カワセミには多分会えますよ。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：9月23日(火・祝)

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車場。

交通：東武伊勢崎線北越谷駅東口、①番バス乗り場から、8:57発、茨城急行バス「エローラ行き」乗車。松伏高校前で下車して、道の反対側の駐車場へ。

担当：田邊、植平、榎本(建)、佐藤、佐野、進士、野村(修)、野村(弘)、橋口、森下、吉岡

見どころ：この探鳥会で見たサギの記録にこの春「アカガシラサギ」が加わって8種類に。今回はその内の何種類が見られるでしょうか。いつも1番乗りの冬鳥コガモやこの時期だけ見られるノビタキも大勢の目で探せばきっと見つかるでしょう。珍鳥は出なくても彼岸花咲く農耕地をのんびり、楽しく歩いて、日本の秋を満喫しましょう。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月28日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越 8:42 発、所沢 8:39 発に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、久保田、鈴木、高草木、中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本(真)

見どころ：鳥たちの渡りの季節です。ここ入間川でも、たまには旅の途中の鳥たちが見られることがあります。軽い気持ちで参加すれば、何かいい事あるかも知れませんよ。

タカの渡り調査

毎年行う大切な定点観測です。初めての方も大歓迎。雨天(小雨でも)中止。調査のため参加費不要。いずれも調査時間内のご都合のよいときに、各調査地点にお出かけ下さい。

◆ 天覧山展望台(飯能市)

日時：9月28日(日) 午前9時～正午まで。
頂上から3分ほど下った所に水洗トイレがあります。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩約30分。

担当：佐久間

見どころ：サシバ、ハチクマ等の渡り調査ですが、他にオオタカ、ツミ、ハイタカ、ノスリ、たまにチゴハヤブサ、ミサゴなどが見られることがあります。

◆ 中間平(ちゅうげんだいら)展望台(寄居町秋山)

日時：9月28日(日) 午前8時～正午まで。

交通：車で寄居町から294号線を東秩父方面に向かい、途中で右に入ります。登る途中に老人ホームあきやま苑があります。中間平緑地公園の中にあり道路脇の展望テラスです。(駐車場、トイレあり)

担当：千島

見どころ：当たり外れがありますが、ミサゴやクマタカなどが飛ぶことがあります。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：10月25日(土)～26日(日)

集合：25日午前9時、長野駅コンコース新幹線改札口を出て右側。

交通：長野新幹線「あさま503号」(東京6:52→大宮7:18→熊谷7:31→高崎7:50→長野8:42着)、または「あさま505号」(東京7:24→大宮7:48→長野8:48着)。

費用：12,000円の予定(1泊3食、現地バス代、保険料など)。過不足の場合は当日精算。

集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：30名(先着順、埼玉会員優先)。

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記し、菱沼一充()

まで、9月1日消印から有効受付。

担当：菱沼(一)、浅見、菱沼(洋)、藤掛

見どころ：埼玉では見る機会の少ないムギマキを見る探鳥会です。紅葉、温泉、新そばと、その他の楽しみも盛りだくさんです。

ご注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。列車発着時刻については、時刻表で確認をお願いします。



行事報告

12月15日(日) さいたま市 三室地区

参加: 62名 天気: 晴

キジ マガモ ハシビロガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ コサギ クイナ バン オオバン ユリカモメ ハイタカ オオタカ ノスリ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ ホオジロ カシラダカ (39種) (番外: ドバト) コースを変えてみた。下見では見られたベニマシコも本番で出現! 三室の冬鳥がほぼ見られた。三室で見られる鳥は少なくなっているが、来年はたくさん見られますように。
(青木正俊)

3月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 42名 天気: 快晴

コジュケイ キジ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト トビ ツミ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (33種) サザンカに遊ぶメジロに見送られ出発。土手沿いでジョウビタキ、チョウゲンボウなどを見ながら河原に。コハクチョウ8羽が出迎えるように旋回してくれた。止まるノスリと飛ぶノスリ、ツミも上空を舞う。野鳥の森のヤブランは、大雪で実が落ちて、期待のレンジャクはおろか小鳥がほとんどいなかったが、オオタカが飛んでくれた。(新井 巖)

3月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 12名

相原修一、宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、大坂幸男、柴野耕一郎、志村佐治、藤掛保司、増尾

隆、松村禎夫、吉原早苗、吉原俊雄

3月16日(日) さいたま市 三室地区

参加: 60名 天気: 快晴

コジュケイ キジ オカヨシガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ バン オオバン セグロカモメ オオタカ カワセミ コゲラ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ カシラダカ アオジ (33種) (番外: ドバト) 春の日差しを受けて、鳥たちはみなきれいに! 順光で見るカワラヒワに「ワァ〜きれい!」の歓声。青空から降ってくるヒバリの囀りに、姿を求めて口ボカリ。上新宿橋でオオタカの狩りに遭遇。大満足の探鳥会。(浅見 徹)

3月16日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加: 31名 天気: 晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アカガシラサギ アオサギ ダイサギ コサギ オオバン タシギ クサシギ トビ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ ホオアカ カシラダカ アオジ オオジュリン (38種) (番外: ドバト) 前半のハイライトは調整池のアカガシラサギ。全身を見せてくれるなどのサービスぶりに皆さん大満足。後半には中川の土手でホオアカが出現。夏鳥には会えなかったが、38種は出来すぎとの陰の声も聞こえた和気あいあいの探鳥会だった。
(田邊八州雄)

3月21日(金、休) 長瀬町 宝登山

参加: 18名 天気: 晴

キジバト トビ ノスリ コゲラ モズ ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ カワラヒワ ウソ ホオジロ (18種) (番外: ガビチョウ) 駅前からロープウェイ駐車場までなかなか鳥の姿が見られず、山野草の開花も遅れ気味。湿地ではイモリの卵を観察。東屋

近くでアカウソが見られたが、鳥が少ない。参加18名、観察種18種と最低記録になった。(井上幹男)

3月21日(金、休) 坂戸市 高麗川

参加: 18名 天気: 晴

コジュケイ キジ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ バン イカルチドリ イソシギ オオタカ カワセミ コゲラ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (35種) (番外: ガビチョウ) 田んぼをオオイヌノフグリやホトケノザがいろいろ、ウグイスが歌い始め、ツバメも戻り、カワセミが繁殖行動で忙しく飛び回っていた。とまっているオオタカの雌の背に、飛んできた雄が直接乗って交尾する姿も目撃できた。春の到来を実感。(山口芳邦)

3月22日(土) 栃木県 日光東照宮裏山

参加: 38名 天気: 晴

カルガモ キジバト オオバン トビ ノスリ クマタカ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス キクイタダキ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ エナガ メジロ ゴジュウカラ キバシリ ミソサザイ カワガラス ツグミ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ カワラヒワ (25種) 残雪が大分融けて、春真っ盛り。大谷川の水量も増えていて、カワガラスが盛んに餌運び。苔むした切り株の上で、小さな体から目いっぱいの轉り続けるミソサザイに釘付け。残雪の上での昼食も一興! ゴジュウカラにキバシリと日光ならではの山の鳥。おまけにクマタカまで飛び、大満足の1日だった。(浅見 徹)

3月23日(日) 寄居町 玉淀河原

参加: 44名 天気: 晴

オカヨシガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ イカルチドリ イソシギ ノスリ コゲラ アカゲラ ハヤブサ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ スズメ

キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ カシラダカ (40種) (番外: ガビチョウ) ツバメとイワツバメを初認し、ハヤブサを観察できたが、エドヒガンザクラはまだつぼみ、カタクリも1株のみ開花と山野草はやや期待外れだった。鉢形城跡のガイドをやっていたら、しやる参加者に、ミニガイドをお願いした。鳥見、花見+歴史散策と、「まるごとウォッチング」になった。(小池一男)

3月23日(日) 狭山市 入間川

参加: 21名 天気: 快晴

オカヨシガモ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ バン オオバン コチドリ トビ ツミ ノスリ カワセミ コゲラ ハシブトガラス ハシボソガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ エナガ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ カワラヒワ ホオジロ アオジ (35種) (番外: ドバト) いつもの神社で挨拶などしているとツミが現れた。トビとノスリも見られたのでタカ3種。入間川ではめずらしい。河原では、コチドリ、数は少なかったがツバメもみられ、ようやく春らしくなってきた。(長谷部謙二)

3月29日(土) 行田市 さきたま古墳公園

参加: 28名 天気: 晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ クイナ コチドリ タシギ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホオジロ ホオアカ アオジ オオジュリン (37種) いつもとコースを変え、古墳公園から旧忍川沿いを古代蓮の里まで歩く。アシ原の陰からクイナがお出迎え、タシギ、コチドリも飛んでくる。夏羽へ換羽中のオオジュリンが多数飛び回り、ホオアカを見た人もいた。行田浄水場の池では数百羽のキンクロハジロなどが残っており、婚姻色に変わりつつあるダイサギや上空を飛ぶツバメとあわせ季節の移り変わりを感じた。(相原修一)

連絡帳

●新副代表就任

長年、代表：藤掛保司、副代表：海老原美夫の体制が続いていましたが、7月20日(日)の役員会議で、新たに副代表として小林みどり=写真=が選出され、副代表2名の体制となりました。



小林新副代表は、すでに研究部長、野鳥記録委員会委員長、次回関東ブロック協議会準備委員会委員長、埼玉県鳥獣保護員などとして、幅広く活躍を続けています。

●普及部長交代

普及部長が橋口長和から長野誠治に交代になりました。橋口は10年間普及部長をつとめました。

●第18回山階好慶賞記念シンポジウム

橋川次郎氏(オーストラリア・クイーンズランド大学名誉教授)と小西正一氏(アメリカ合衆国・カリフォルニア工科大学名誉教授)の2名に特別賞を贈ることになり、それを記念したシンポジウム『鳥の研究はここまで進んだ～人は鳥から何をまなべるか～』を開催します。

日時：9月23日(火・祝) 13:00～16:15

開場 12:00

会場：有楽町朝日ホール(有楽町 2-5-1 有楽町マリオン 11階)

参加費：無料 申込み：不要 定員 500名 (先着順)

講演「長期野外個体群研究が明らかにすること」長谷川博、「橋川次郎の生態学—行動・生態・進化のつながり」江崎保男、「小鳥の歌と耳」岡ノ谷一夫、「注意の仕組みをウズラに学ぶ」内山博之。

問合せ：(公財)山階鳥研「山階賞」係
電話 04-7182-1101 FAX 04-7182-1106
E-mail koho@yamashina.or.jp

●会員数は

8月1日現在 1,810人。

活動と予定

●7月の活動

7月12日(土) 『しらこぼと』8月号校正 (海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、長嶋宏之、藤掛保司)。

7月20日(日) 役員会(司会：長野誠治、各部の報告・新副代表選出・普及部長交代・その他)。

7月22日(火) 『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』8月号を郵便局から発送(海老原美夫)。

●9月の予定

9月6日(土) 研究部・編集部・普及部会。
9月13日(土) 10月号校正(午後4時から)。
9月20日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
9月21日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

元の職場から依頼があつて、3ヶ月の予定で通っている。辞める前に手掛けていた仕事の必要性が認められたのだ。いろいろあつて、鳥見の回数が少なくなっているが、久々に会う職場の鳥たちは暑いさなかにも元気に活動していて、心を和ませてくれる。やっぱり鳥はいい。そして仕事も。(森本)

しらこぼと 2014年9月号(第365号) 定価 200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/ 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社